

■2024衆院選 マニフェスト（政権公約）のできばえチェック表

※点数は、「2024衆院選の点数 ← 2022参院選の点数 ← 2021衆院選の点数」

基本項目	配点	項目	政党名																																
				自由民主党			立憲民主党			日本維新の会			公明党			日本共産党			国民民主党			れいわ新選組			社会民主党			参政党			みんなで作る党				
				2024衆院選	2022参院選	2021衆院選	2024衆院選	2022参院選	2021衆院選	2024衆院選	2022参院選	2021衆院選	2024衆院選	2022参院選	2021衆院選	2024衆院選	2022参院選	2021衆院選	2024衆院選	2022参院選	2021衆院選	2024衆院選	2022参院選	2021衆院選	2024衆院選	2022参院選	2021衆院選								
①理念・ビジョン	ありたい国の姿（理念・ビジョン・将来像）が示されているか ありたい国の姿の根拠・着眼点が見えているか 国家としての課題が捉えられているか	10	点数	5.5	6.5	6.5	5.7	5.5	7	5.5	2	4	6	5	5	5	5.7	5.3	5	3.5	2.3	4	3	2	3.5	5	-	-	1	1	-				
②政策の体系性・一貫性・独自性	ビジョン・方針・政策が体系化されているか 相互に矛盾する内容が無定義に盛り込まれていないか	10	点数	5.5	5.5	6.5	5	5.5	6.5	4.5	2.5	4.5	6	6.5	7	5	5.3	5.5	6.3	6.5	6.5	4	4.5	5.5	3.5	3.5	4	4	-	-	1	2.5	-		
③政策の具体性	政策の目標・期限・実現方法（工程）・財源などが明示されているか 達成度・成果の事後検証は可能か	10	点数	4.3	5.3	4.5	4.3	5.5	5	4.5	2	4	4.5	5	5.5	5.5	5.5	6.3	5.5	5	5.3	5	4.5	2.5	3.5	3	4.5	4	3.5	-	-	1	2	-	
④政策の実現可能性	目標・政策の実現可能性について、合理的な説明がされているか 実行体制・実行プロセスは示されているか	10	点数	2	2	2.5	2	1.3	2.5	2.5	1.8	3	2	2	2.5	2.5	2.5	2	3	1.7	1	2.5	1	1	2.5	1.5	1.5	2	3	1.5	-	-	1	1	-
⑤市民起点度	読み手に取ってわかりやすい工夫はされているか マニフェストの配布・周知の工夫はされているか 策定過程において国民の提案を組み込むプロセスを有しているか	10	点数	5	2.8	4	4.7	4.8	6.5	4.5	1	4.5	5	5.5	6	3	2.5	3.5	5	5.3	5.5	4	2	5	3	2	4	4.5	-	-	1.5	1.3	-		
計	50	点数		22.3	22	24	21.7	23	28	21.5	9.3	20	23.5	24	27	21	22	23	23.7	23	25	17	12	21	14	14	19	18.5	-	-	5.5	7.8	-		
	100	点数		44.6	44	48	43.4	45	55	43.0	19	40	47.0	48	54	42.0	43	45	47.4	47	49	34.0	25	41	28.0	28	37	37.0	-	-	11.0	16	-		
	換算	総合コメント	政治資金の問題等が解散の大きな要因になったこともあり、「ルールを守る」という党の信頼回復を目指すスローガンが一番に掲げられている。やむを得ない面もあるが、国をどう変えていくのか、まちづくりのビジョンが二の次になっている印象はぬくえない。短期間であったが、個別の政策課題は体系的に網羅されており、政策集・政策BANKも公表されている点は、政権与党として力を存分に発揮しており評価できる。一方で、何に重点を置くのかがわかりにくく、目標や財源についての記述もほとんど見られないため、実効性が判断しづらい点は、政権与党のマニフェストとしては物足りない。こども向けのマニフェストを公表した点はよい。	「政治の信頼改革」を冒頭に掲げたうえで、「分厚い中間層の復活」をスローガンに掲げており、政権与党との違いや伝えたいメッセージは明確になっている。ただし、7つの重点政策を打ち出しているが、上記の2つ以外は体系的な整理が不十分な印象があり、具体的な数値目標や助成額等の記載もこれまでのマニフェストに比べて減っている。相当な騰出増になることが見込まれる政策も多く含まれているため、それらが財政的に実行可能か、検証できる材料が提示されていない点は課題といえる。音声版のマニフェストを公表し、点字版も準備している点はよい。	「古い政治を打ち破れ。」をスローガンに、「4大改革」と「維新八策」を打ち出している。4大改革については、「将来世代への徹底投資で、新しい時代の政治を創る」という方向性で、マニフェストとは別に改革のストーリーラインをまとめた資料を公表しており、改革項目ごとに現状と原因、それに対する対策の方向性が整理されていてわかりやすい。「維新八策」では、統治機構改革や憲法改正、ベネッセインカムの導入等が強く打ち出されており、党の特徴・スタンスが表れている。前回の参院選のマニフェストより具体化され改善されていると見えるが、財源確保に関する意識・記述は薄まっている印象があり、実効性に関する課題感には逆が強まっている。	「令和の政治改革」でクリーンな政治の実現を謳った上で、6つの重点政策を打ち出している。所得向上という切り口で、経済・雇用・環境政策をまとめており、子どもの幸せという観点で教育・子育て・児童福祉政策をまとめていたりするのはわかりやすい。また、重点政策とは別に、女性活躍と若者活躍に関する政策をまとめている点もわかりやすく評価できる。一方で、財源についての検証がされていない点や、財政規律に関する記載がない点は、政権与党のマニフェストとしては大きな課題といえる。「ダウンロード&シェア」でSNS拡散をしやすいとする取組は継続されている一方、恒例であった「こどもマニフェスト」は今回は間に合わなかった（10月12日弊所確認時点。10月18日に掲載）ようで残念である。	「政治への信頼回復」と「暮らし優先での経済の立て直し」など6つの柱を立て、現政権との対立軸を明確に打ち出している。各分野の政策についても、99の項目に分けて別途詳細に整理されており、平時からビジョンと政策を明確にし、整理検討していることがうかがえる。ただし、従来からテキストばかりのマニフェストで、有権者に見やすく、わかりやすく伝えようとする工夫がなされておらず、改善される気配がない。財源確保について明記している点は評価できるが、これも従来形式を引き継いでおり、実現が相当困難や悪影響が予想されるものが含まれており、実現可能性には疑問が残る。伝わらなければ意味がないため、ホームページの効果的な活用を含め、政策の伝え方について気を配り改善することが求められる。	「手取りを増やす。」をスローガンに、4本柱でまとめている。令和の所得倍増計画として経済と年金を一体的に整理したりするなど、政策のまとめ方に独自の工夫がみられる。「政策各論」として個別の政策も体系的・網羅的に整理されている。4本柱については数値目標の設定も見られ、一定の具体性が担保されている。ただし、財源については年5兆円程度の「教育国債」の発行は提案されているものの、それ以上の記載はなく実効性には疑問が残る。SNSを通じて国民の声を集め、ホームページですべてのコメントを参照できるようにしており、実際の政策への反映は限定的にたがってこそ、インパクトのある政策を束ねた「あれもこれも」のパラマキ型の政策集にとどまっている印象がぬくえない。	「世界に絶望してる？だったら変えよう。」というタイトルの、プランが束ねられている印象で、ビジョンが見えてこない。目立った独自政策も見当たらず、党としてのポジティブな印象があまりに感じられない。政策の具体的な行動が位置付けられており、政策的な一貫性が高い。重点を絞った特化型のマニフェストのPDFを容易にダウンロードできるようにしておらず、ホームページ上で1ページずつめくっていかねばならない。PDFや紙のマニフェストは35の政策が詳しく記載され、資料編としてバックデータ等も掲載されているが、同様に1ページずつめくっていかねばならない。国民に政策をアピールし、政策で戦おうとする意志が不足していると言わざるを得ない。	「日本を立て直す社民党6つのプラン」と「日本をなめるな！」という刺激的なスローガンで、3つの決意と7つの行動で整理している。「日本を護り抜く」が共通のキーワードになっており、保守的な国家観が強く表現されている。その決意のもとに具体的な行動が位置付けられており、政策的な一貫性が高い。重点を絞った特化型のマニフェストであり、網羅性や体系的な担保されていない。アニメを使ったトップページで、マニフェストは動画での説明が主となっている。PDFや紙のマニフェストは見当たらず、漫画の紹介資料がダウンロードできるようにしている。政党名の通り、参加型を標榜しており、クラウドファンディングによる参加も募っている。テーマソングもあるなど、独自の巻き込み戦略を展開している。	マニフェストについては、1枚紙の文書を告知したのみで、党のホームページでもお知らせから見に行かなければ足りず、積極的に政策を発信する姿勢ではない。その文書も、「大綱」として3分野で9項目を示しているのみにとどまっている。全国知事会における提言86項目のすべてについて賛意を示すとし、そのうちの9項目を重点項目として設定するとしており、他の団体の提言内容をそのままの政策とするという異例の内容となっている。なお、参加型の政策形成を標榜しており、若者の政治参加を促進する中で、大綱に沿って個々の政策を具体的に立案・形成するとしている。その趣旨は理解できるものの、本選挙における公約としては機能するものではない。																								

※2022参院選は旧・NHK賞の得点

採点： 10点・・・・・・条件を満たしている  
 ↓  
 0点・・・・・・条件を満たしていない

▽条件を満たす割合に応じて配点  
 (例) 条件の8割程度満たしている：8点  
 条件の3割程度満たしている：3点 等

※これまで「③政策の具体性・実現可能性」は20点としていたが、③と④の2つ分け、それぞれ10点とした。

**総評（コメント）**

急な選挙となり、各党とも十分な準備ができていない状況がうかがえ、特に小規模政党は内容・広報ともかなりの不足感が否めず、政局優先になっており政策で争う選挙になっていない。各党とも主要政策を束ねただけのマニフェストになってしまっている面が否めず、国として目指すべきビジョンやそれに向けた重点課題、実現に向けた道筋が整理・提示されておらず、具体的な目標値の設定も行われていないケースが多い。財源や財政規律について責任ある記述をしている政党はほとんどなく、実効性が担保されないパラマキ型のマニフェストになってしまっていると言わざるを得ない。

日常からマニフェストを研究しアップデートしていくことが求められるが、この点が各党とも十分ではないことがうかがえる。これは、各党が党内にシンクタンクの機能を十分に持ち得ていないという現状があることが今回あらためて浮き彫りになったと言える。衆議院選挙はいつ実施されるか判断が難しいとはいえ、長くても4年に1度には行われるのであり、さらに来年予定の参議院選挙は選挙日程が決まっている。マニフェスト型選挙に向けた早期の体制構築を各党には強く期待する。

100点満点中50点以上の評価となった党がゼロであった前回参院選と同様、今回も十分な評価をつけられない全体結果となった。検証可能なマニフェストになっていないことが、国民の政策への関心をいっそう薄めてしまっている側面もあり、政治への信頼回復を期す本選挙において逆効果になってしまうのではないかと懸念されている。前回の参院選では進みつつあったインターネット等を通じた双方向での政策対話がほとんど見られなくなってしまったのもきわめて残念である。

近年、見栄えは良いが肝心なことが記載されていないマニフェストが常態化している。有権者が知りたい情報は伝えず、イメージアップ対策が目立つ選挙に有権者は政治への諦め感を増幅しているのではないかと懸念されている。党としての政策をブラッシュアップしておく必要性が浮き彫りになったといえ、選挙時に慌ててマニフェストをまとめるのではなく、日ごろから国民との政策対話を行い、もっと真剣にマニフェストづくりに向き合うことを強く望みたい。